

美術デザイン学科 第一部

学科教育科目

美術デザイン学科第一部の教育目標

美術デザイン学科第一部では、建学の理念を学科教育の基本とし、教育目標を次のように考えています。

美術やデザインの分野で自分を表現したい人はもちろん、美的感性を磨き、企画力、表現力を身につけることで、美術やデザインの現場で自分を活かしたいと願っている人をサポートします。自らの適性を発見し、自分にあった科目を自由に選択できるシステムを導入することで、ひとつの分野を深く学びたい人も、さまざまな領域を広く体験したい人も、また理論を中心に勉強したい人にも対応しています。

さらに幅広いジャンルにわたる創造体験が可能な演習と、コンピュータを用いた表現を習得する演習が行われます。

また、これらの演習と並行して造形芸術に関する知識を伝える講義と、ものづくりの背後にある思考力をきたえるための講義が進められます。学生は、演習と講義の相互作用を通して自らの美的感性を高め、発想力や表現力を身につけていきます。その手段として「理論」・「手による造形表現」・「コンピュータによる造形表現」を三本柱にした「文化を含めた造形学習」が展開されます。

さらに当学科において、教育課程の中から所定の必修科目を履修することにより、以下の資格を取得することができます。

「二級建築士受験資格」「木造建築士受験資格」

卒業後の進路としては、アーティスト、グラフィックデザイナー、インテリアデザイナー、建築士、芸術文化施設の運営担当、イベントプランナー、企業の企画や美的センスを要求される部署が考えられます。

平成 21 年度 (2009 年度) 入学者

カリキュラム年次配当表

美術デザイン学科第一部 平成21年度（2009年度）入学者対象

[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		2級建築士・木 受験資格	学年配当 (数字は週当たり授業時間)				備考
			必修	選択		1年		2年		
						I	II	I	II	
学	デッサン論	講義	1			1				
	東洋美術史	講義	1				1			
	西洋美術史	講義	1					1		
	色彩学	講義	2			2				
	仏教美術論	講義	2						2	不開講
	画像情報処理概論	講義	2			2				
	現代建築論	講義	1		●				1	[稲富 恭]
	住文化論	講義	2		●				2	[清水 愛]
	建築インテリア計画	講義	2		●				2	[井樋 満治]
	建築一般構造	講義	2		●		2			
	建築史	講義	2		●		2			
	庭園史	講義	1		●		1			
	建築インテリア法規	講義	1		●			1		[井樋 満治]
	建築構造力学	講義	2		●				2	[稲富 恭]
	建築インテリア施工	講義	1		●				1	[稲富 恭]
	建築材料学	講義	2		●		2			
	写真論	講義	1					1		[和多田 浩]
	メディア論	講義	2						2	不開講
	映像論	講義	1						1	[谷口 新]
	教	ビジュアルデザイン概論	講義	1					1	
マンガ論		講義	1					1		[いわみ えいこ]
美と造形の心理学		講義	1			1				
現代美術論		講義	1					1		[桂 今日子]
デッサン		演習	3			3				
造形の発想・マテリアル		演習	3			3				
立体造形		演習	3					3		不開講
造形表現の体験A		演習	3			3				
造形表現の体験B		演習	3			3				
CG基礎演習		演習	2			2				
育	デジタルデザインI (DTP)	演習	2				2			
	デジタルデザインII (CAD)	演習	2				2			
	デジタルデザインIII (3D)	演習	2		●				2	[谷口 新]
	デジタルデザインIV (Web)	演習	2					2		[谷口 新]
	洋画A	演習	3				3			
	写真A	演習	3				3			
	染色A	演習	3				3			
	インテリアデザインA	演習	3				3			
	版画A	演習	3				3			
	ビジュアルデザインA	演習	3				3			
目	陶芸A	演習	3				3			
	イラストレーションA	演習	3				3			
	日本画A	演習	3				3			
	建築デザインA	演習	3		●		3			
	日本画B	演習	3					3		山下 彰一
	写真B	演習	3					3		不開講
	洋画B	演習	3					3		(岩見 健二)
	ビジュアルデザインB	演習	3					3		[谷口 新]
	陶芸B	演習	3					3		不開講
	建築デザインB	演習	3		●			3		[稲富 恭]

カリキュラム年次配当表

美術デザイン学科第一部 平成21年度（2009年度）入学者対象

[]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		2級建築士・木 受造建築士 資格	学年配当 (数字は週当り授業時間)				備考	
			必修	選択		1年		2年			
						I	II	I	II		
学科 教育 科目	版画B	演習		3				3		柳楽 節子	
	インテリアデザインB	演習		3				3		[井樋 満治]	
	染色B	演習		3				3		不開講	
	イラストレーションB	演習		3				3		満田 知美	
	マンガ・アニメ	演習		2			2				
	自由制作Ⅰ	演習	2			1					
	自由制作Ⅱ	演習		2				1			
	自由制作Ⅲ	演習		2					1		柳楽 節子・(岩見 健二)・[浜島 成憲]
	卒業制作・卒業研究	演習		4					3		☆7名

☆ 柳楽・山下・(岩見)・[稲富]・[浜島]/[谷口]・満田

《学科教育科目》

科目名	現代建築論				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・本科目のねらいは、現代建築全般について理解することにより、建築の実践に必要な知識を習得することにある。ここで現代建築とは主として第二次世界大戦後に計画、建設された建築を指す。単に現代建築の物理的側面を取りあげるだけではなく、それらの建築と社会情勢との関わりについて注目する。
- ・本授業では座学による講義形式で行う。

《授業の到達目標》

- 建築の実践に必要な思考法、デザイン手法について理解する。
- 建築士試験の該当箇所に対応できる知識を習得する。

《テキスト》

- ・テキストは用いない。

《参考文献》

- ・『新建築臨時増刊 建築 20 世紀 PART1』、新建築社,1991
- ・『新建築臨時増刊 建築 20 世紀 PART2』、新建築社,1991
- ・『新建築 2001 年 11 月臨時増刊 建築 20 世紀 4 人の建築家が問う 1990 年代』、新建築社,2001

《成績評価の方法》

- ・授業中に行う小テスト(50%)、学期末レポート(50%)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
参考文献等を用いて、各回の授業内容における代表的な建築について確認する。
- ・復習の方法
授業後は授業内容に沿ってノートの作成を行う。
- ・学期末レポート
最終授業に提示される「学期末レポート」の執筆を行う。

《備考》

- ・本授業は建築士受験資格取得のための必修科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス:授業の全体構成と現代建築の位置づけ
第 2 週	戦後日本の建築と東京オリンピック
第 3 週	第 2 次世界大戦後のモダニスト達の動向
第 4 週	高度成長期における大阪万博とメタボリズム
第 5 週	戦後アメリカの発展と建築
第 6 週	ポストモダンと現代思想
第 7 週	バブルの時代と東京
第 8 週	デコンストラクションとネオモダニズム
第 9 週	ミッテランのグランパリ構想とヨーロッパの建築
第 10 週	ポストバブルと日本の公共建築
第 11 週	スイスの現代建築とその影響
第 12 週	コンピュータの利用と建築デザインの変化
第 13 週	21 世紀日本の狭小住宅
第 14 週	中国・中東の建築とマネーゲーム
第 15 週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	住文化論				
担当者名	清水 愛				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

世界の具体的な住まいとその社会の考え方。そして、住宅建築の歴史を通じて、過去・現在・未来の日本の住まい方の様々な空間やかたちの意味を理解する。

実例を提示しながら、その内容に基づいた課題に取り組むことにより、現代の日本の住まいの現状を知り、建築・インテリアのこれからを考察することを目的とします。

《授業の到達目標》

「すまい」は人々にとって、どのような役割を果たしているか、について説明できる。

建築・インテリアの様式を類別出来、現代の「すまい」の実状を把握し、プランニング・プレゼンテーションに役立てる応用力を身につける。

《テキスト》

資料としてプリント配布。

《参考文献》

シリーズ建築人類学①～④（学芸出版）

家族・育み・ケアリング（北樹出版）

日本の家（TOTO 出版）

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とします。

各分野の課題提出（100%）。

その都度提出遅れについては、原点となります。

《授業時間外学習》

授業後、配布した資料を再確認し、不明な点は次回授業時、質問して下さい。

日頃から、いろいろな場所で、どのような素材・色彩・アイテムで住まいが成り立っているかを見る習慣をつけ、それを提出課題に活かして下さい。

《備考》

建築士受験資格取得の必修科目です。

インテリアコーディネーター・インテリアプランナーを目指す人も受講すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	日本の住居史
第 2 週	家族と住居の関わり
第 3 週	世界の住居 アジア
第 4 週	世界の住居 ヨーロッパ
第 5 週	世界の住居 アメリカ
第 6 週	課題制作とプレゼンテーション
第 7 週	日本の住居 境界空間
第 8 週	日本の住居 仕切り
第 9 週	日本の住居 場
第 10 週	日本の住居 部位
第 11 週	日本の住居 設備
第 12 週	日本の住居 素材
第 13 週	日本の住居 しつらい
第 14 週	日本の住居 象徴
第 15 週	課題制作とプレゼンテーション

《学科教育科目》

科目名	建築インテリア計画				
担当者名	井樋 満治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

住宅建築を中心に、建築物やインテリアの計画に必要な人的要素や、物的要素に関する基本的な知識を修得する。

《授業の到達目標》

人と建築・インテリアの関わり方や、住まい方、またはその工夫は、人体寸法や解剖学・生理学を基本とする人間工学や、住宅を取り巻く物理的な環境を考える環境工学などを基本とする基礎知識の上に成り立っています。また、これらの諸条件を整えるための住宅設備の特性。文化や歴史を背景とする流行や住まい方の変遷。これらの知識を習得することは計画者にとって必須といえます。

《テキスト》

そのつど資料を配布。

《参考文献》

インテリアコーディネーターハンドブック 技術編・販売編。

《成績評価の方法》

テストにより評価する。(100%)

出席10回以上が単位認定の基準とする。

《授業時間外学習》

日常生活の中での生活行為がインテリアを計画する上で重要な要素となります。これら（炊事・洗濯・掃除などの家事）を経験することも重要な要素です。関心を持って取り組んでください。

《備考》

建築士受験資格取得に必要な科目です。インテリア・コーディネーター、インテリア・プランナーを目指す人も履修してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	現代の住宅政策
第2週	日本の住宅の歴史1
第3週	日本の住宅の歴史2
第4週	インテリア空間1
第5週	インテリア空間2
第6週	人間工学1
第7週	人間工学2
第8週	造形と色彩1
第9週	造形と色彩2
第10週	環境工学1 熱と日射
第11週	環境工学2 音
第12週	環境工学3 採光と照明
第13週	住宅設備1 給排水
第14週	住宅設備2 通風と空調
第15週	環境共生住宅について

《学科教育科目》

科目名	建築インテリア法規				
担当者名	井樋 満治				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

建築、インテリアを設計するために必要な法的知識と考え方を習得する。

《授業の到達目標》

建築関連の法規は建築計画を行う上では必須です。法規が分かっていないと他者（施工者・行政関係者）とのコミュニケーションが取れません。難解な法規の諸問題の基本的な部分の理解を目指します。

《テキスト》

平成22年度版建築関係法令集「法令編」 (株) 霞ヶ関出版社
 その他は、講義毎にプリントを配布。

《参考文献》

インテリアコーディネーターハンドブック 技術編・販売編。

《成績評価の方法》

テストにより評価する。(100%)
 出席10回以上が単位認定の基準とする

《授業時間外学習》

日常生活の中で目にする建築物はすべて建築基準法に基づいて設計されています。それらの建築物を普段から注意深く見るようにしてください。

《備考》

建築士受験資格取得に必要な科目です。インテリア・コーディネーター、インテリア・プランナーを目指す人も履修してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	ガイダンス 法規とは
第2週	建築法規に使用される用語1
第3週	建築法規に使用される用語2
第4週	面積・高さの算定法
第5週	一般構造規定
第6週	構造強度規定
第7週	防火規定
第8週	避難規定
第9週	道路と用途制限
第10週	容積率と建ぺい率
第11週	高さ制限、斜線制限
第12週	防火地域の制限
第13週	確認申請
第14週	その他の関連法規1
第15週	その他の関連法規2

《学科教育科目》

科目名	建築構造力学				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・建築構造の力学的な成り立ちや、構造計算を行うための知識を習得する。
- ・授業は座学による講義と課題の演習によって行う。

《授業の到達目標》

- 構造力学の基礎について理解する。
- 小規模建築の構造計算を行うための能力を身につける。
- 二級建築士試験の該当分野に対応できる能力を習得する。

《テキスト》

- ・テキストは用いません。

《参考文献》

- ・『世界で一番やさしい建築構造-110のキーワードで学ぶ(エクснаレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 2)』、エクснаレッジ,2008
- ・『初めての建築構造力学(建築のテキスト)』、学芸出版社,2000

《成績評価の方法》

- ・授業中に不定期に実施する小テストによって評価する(100%)。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
参考文献等を用いて、事前に該当箇所の予習を行う。
- ・復習の方法
指示された自宅課題を行う。

《備考》

- ・授業には電子計算機等を持参すること
- ・本授業は建築士受験資格取得のための必修科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	建築にかかる力 積載荷重、風圧力、地震力
第 2 週	力に関する基礎知識 1 反力、応力、力の合成、力の分解
第 3 週	力に関する基礎知識 2 せん断力、モーメント、軸力
第 4 週	断面の性質
第 5 週	応力度とひずみ
第 6 週	静定梁の解法 集中加重
第 7 週	静定梁の解法 等分布加重
第 8 週	不静定梁の解法
第 9 週	静定ラーメンの解法
第 10 週	長軸と座屈
第 11 週	静定トラスの解法 1
第 12 週	静定トラスの解法 2
第 13 週	木造住宅の断面設計
第 14 週	木造住宅の壁量計算
第 15 週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	建築インテリア施工				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・施工とは設計された建物を実際につくりあげることを意味している。本授業では、施工における各工事について理解し、基礎的な知識を身につけることを目的とする。授業内容は建築施工一般について取り扱うが、基本的に木造住宅の工程に沿って授業を行う。
- ・授業は座学による講義を基本として進める。

《授業の到達目標》

- 建築施工全般に関する概観的な知識、住宅施工に関する専門的知識を身につける。
- 建築士試験の施工分野に対応できる能力を身につける。

《テキスト》

- ・テキストは用いない。レジメ・資料を毎回配布する。

《参考文献》

- ・『建築施工（初学者の建築講座）』、市ヶ谷出版社,2003
- ・『初めての建築施工（建築のテキスト）』、学芸出版社,2000

《成績評価の方法》

- ・各自が作成した授業ノート(10%)、授業中に不定期に実施する小テスト(90%)によって評価する。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
参考文献等を用いて、事前に該当箇所の予習を行う。
- ・復習の方法
授業内容に従いノートを作成する。

《備考》

- ・本授業は建築士受験資格取得のための必修科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス:建築の施工と現状
第 2 週	仮設工事
第 3 週	測量
第 4 週	基礎・地下工事
第 5 週	コンクリート工事
第 6 週	木工事
第 7 週	鉄骨工事、小テスト
第 8 週	組積工事・石工事
第 9 週	防水工事
第 10 週	ガラス工事
第 11 週	仕上工事 1
第 12 週	設備工事
第 13 週	工事金額と見積書の理解
第 14 週	小テストと解答の解説
第 15 週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	写真論				
担当者名	和多田 浩				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

毎日、私たちが触れる情報の中には、必ず写真や映像があふれています。現在の写真は、社会のさまざまな分野において情報伝達手段としての役割が、ますます重要な存在になっています。デジタルカメラが急速に普及する中で、3D映像など高度なテクノロジーによる、新しい表現での画像システムが展開される写真を、記録や伝達、あるいは芸術表現の手段であるだけでなく、社会との関わりと、その意味や機能など、写真のもつ表現方法を探る。

《授業の到達目標》

写真、映像を通して、物を見る目を作り、写真表現の説明ができる。写真をつくる方法を理解し表現の手段を広げることができる。写真家としての、写真表現の理解を深め、映像制作のための、ワークフローの説明ができる。

《テキスト》

プリント配布

《参考文献》

『ImPerfect』 Terry Richardson : Te Neues Pub Group
 『Babeth』 TBabeth Djian : Steidl
 『NORTHERN』 線上和美 : スイッチパブリッシング
 『フォトグラファーの仕事』 佐内正史、蛭川実花ほか : 平凡社
 『グラフィック・デザイナーの仕事』 グルーヴィジョンズ、蛭川実花ほか : 平凡社
 『あなたにもできるプロワザ商品撮影』 : 玄光社 MOOK
 『実践人物ライティング―「写真の学校」』 写真の学校, 東京写真学園 : 雷鳥社

《成績評価の方法》

授業内討論等への参加とその成果 40% (参加意欲および協力度と内容によって評価する)
 レポート課題等の提出物 60% (出遅れについては、減点する)

《授業時間外学習》

メールを利用して進めてください。第1回講義にて、連絡用のメールアドレスをお知らせします。
 予習の方法 : 課題と予習資料を出しますので、次の授業内討論等への参加資料として、授業前日までに提出してください
 復習の方法 : 授業内容を再確認し不明な点は質問してください。次週までに、作品と、コメントを提出してください。
 関連図書を紹介いたします。その中から何冊か選びレポートを提出してもらいます。計画的に学習を進めておいてください。

《備考》

第3週目からする講義が有ります。カメラを用意すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	写真について (写真表現を考察)
第2週	写真に関わる周辺分野について、写真の意味や機能、社会との関わりなど写真の全般にわたって探る
第3週	” (広告写真1)
第4週	” (商品を写す)
第5週	” (広告写真2)
第6週	” (町を写す)
第7週	” (広告写真3)
第8週	” (人物を写す)
第9週	ポートレート、写真表現からの、構図、構成を考える
第10週	” (ワークショップ)
第11週	” (ワークショップ)
第12週	広告写真 (ファッション)
第13週	広告写真 (食)
第14週	広告写真 (メディア)
第15週	作品と考察、まとめ (表現方法の考察)

《学科教育科目》

科目名	映像論				
担当者名	谷口 新				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

映像に映し出される対象、そしてそれを受け取る鑑賞者との関係を、現代社会に提示される課題を照らし合わせながら考えていくのがこの授業のねらいです。配布するテキストの講読と、その内容に関する説明とディスカッションで進めていきます。また、何本かの映像作品を鑑賞し、作品についてのディスカッションも行います。

《授業の到達目標》

比較的無防備に受け止めがちである、メディアを通じてのイメージ(メディアによって作られたりするイメージ)の意味を理解し、そのイメージがどのように現代社会形成の一部になっているか理解できるようになることが目標です。

《テキスト》

“新映画理論の集成“、フィルムアート社、より抜粋をプリント配布します。

《参考文献》

新映画理論の集成-歴史、人種、ジェンダー“、フィルムアート社

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

評価は定期試験期間に筆記試験（70％）、出席率（30％）で行います。テキスト・ノートの持ち込みは自由です。

《授業時間外学習》

メディアとは映画やテレビだけというわけではありません。日常的に接するもの、新聞や雑誌、広告、店舗のディスプレイなども含まれます。どのような形で作られたイメージが利用されているか意識的を持って接するように心がけて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス・テキストの配布
第 2 週	テキストの内容に関するディスカッション
第 3 週	映像鑑賞
第 4 週	映像に関するディスカッション
第 5 週	テキストの内容に関するディスカッション
第 6 週	映像鑑賞
第 7 週	映像に関するディスカッション
第 8 週	テキストの内容に関するディスカッション
第 9 週	映像鑑賞
第 10 週	映像に関するディスカッション
第 11 週	テキストの内容に関するディスカッション
第 12 週	映像鑑賞
第 13 週	映像に関するディスカッション
第 14 週	映像に関するディスカッション
第 15 週	学習のまとめとテスト

《学科教育科目》

科目名	ビジュアルデザイン概論				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・1期

《授業のねらい及び概要》

- ・現代社会における、ビジュアルデザインのあり方について考える。
ビジュアルデザインは、ある事について、目に見える形への視覚化とその視覚化された形がすべての人々に共通に理解される必要がある。いいかえれば、イメージの視覚的特性によるコミュニケーションを目的とするデザインであることを理解する。

《授業の到達目標》

- ・ビジュアルデザインは、かつて印刷技術を媒介とした伝達方法を意味したが、今日ではCGなど新しい映像メディアの出現により、新しいコミュニケーションデザインとして展開されつつあるが、現代社会におけるビジュアルデザインのあり方を解説する。この事を理解することによって、それぞれのテーマに対してどのような表現方法が最も適切なのかをデザイン制作に活用することができる。

《テキスト》

- ・使用しない

《参考文献》

- ・『情報社会とコミュニケーション』（角川書店・情報デザインシリーズ Vol・5）

《成績評価の方法》

- ・レポート課題・・・100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・次回の授業に解説するプリントを配布するから、よく読み内容を理解しておくこと。

《備考》

- ・漫画、アニメーション、映画、街のポスター等々を良くみておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・ビジュアルデザインとは何か？(概説) ビジュアルデザインの分野について解説
第 2 週	・情報社会とデザイン
第 3 週	・視覚情報伝達デザインの要素 エディトリアルデザイン、ピクトグラム、イラストレーション、CG他
第 4 週	・ピクトグラムとは？ トイレ、レストラン、禁煙、切符売り場など絵文字として表わされる表現について
第 5 週	・イラストレーションについて 漫画、挿し絵など近年、重要な表現技法
第 6 週	・CGについて コンピューターグラフィックスといわれる。教育、交通、報道、出版、ゲームに至るまでビジュアルデザインの表現手段として特に期待されている。
第 7 週	・インターネット広告について バナー広告、メール広告、オプトインメール、アドネットワーク等々
第 8 週	・シンボル(象徴)としてのビジュアルデザイン
第 9 週	・サイン(記号)としてのビジュアルデザイン
第10週	・コミュニケーションとしてのビジュアルデザイン・I コミュニケーションの意味
第11週	・コミュニケーションとしてのビジュアルデザイン・II 対人伝達 集団 社会
第12週	・デザイン制作のプロセスについて(作品を例として発想～創作まで) 着装・・・発想・・・構想・・・資格化
第13週	・ビジュアルデザインに必要な条件・I 意味性 人間性 創造性
第14週	・ビジュアルデザインにひつような条件・II 説得力 造形性 現代性
第15週	・現代社会におけるビジュアルデザインについて

《学科教育科目》

科目名	マンガ論				
担当者名	いわみ えいこ				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

マンガの歴史や文化における意義を学ぶ
 マンガの表現方法の多様性を知り、種々のジャンルの創作にチャレンジする
 マンガ、アニメの鑑賞と評価
 マンガ作成

《授業の到達目標》

自分の表現活動の視野を広げるため、マンガの芸術性やその歴史にふれることができる

《テキスト》

なし（必要に応じてプリントを配布する）

《参考文献》

適宜指示する

《成績評価の方法》

授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする
 作品（50%）、レポート（50%）により評価する

《授業時間外学習》

毎回学習したことについて各自でより深く調べておくこと

《備考》

出席していても態度により評価は変わります

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション①
第2週	マンガの歴史Ⅰ（中世）絵巻物
第3週	マンガの歴史Ⅱ（近世）戯曲、浮世絵
第4週	マンガの歴史Ⅲ（現代）ポンチ画、マンガ雑誌
第5週	作品鑑賞会①
第6週	ジャンル別マンガの表現法Ⅰ、年代別、性別
第7週	ジャンル別マンガの表現法Ⅱ、ギャグ、風刺
第8週	ジャンル別マンガの表現法Ⅲ、スポーツ、ヤクザ
第9週	ジャンル別マンガの表現法Ⅳ、ホラー、ミステリー
第10週	作品鑑賞会②
第11週	世界のマンガ、アニメの現状とこれからⅠ、世界における日本マンガ
第12週	世界のマンガ、アニメの現状とこれからⅡ、ウェブコミック
第13週	世界のマンガ、アニメの現状とこれからⅢ、インターネットマンガ
第14週	世界のマンガ、アニメの現状とこれからⅣ、アニメ映画、TVアニメ
第15週	作品鑑賞会③、レポート提出

《学科教育科目》

科目名	現代美術論				
担当者名	桂 今日子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この講義では、一般的にわかりにくいとされる現代美術をとりあげ、授業を通して理解を深めてゆく。同時に、その時代、文化的背景も学び、美術様式との関連性を知る。芸術作品の意味、社会とのかかわりを学ぶことで、今後の芸術の展開などを予見し、作品制作に知識を生かしてゆくことを目標とする。

《授業の到達目標》

- ・美術様式が判別できる。
- ・近代、現代美術がどのようなコンセプトを持つか説明できる。
- ・時代が様式を生み出した理由を説明できる。
- ・自分の作品制作に、学んだことを活用できる。

《テキスト》

必要に応じてプリント配布。

《参考文献》

『20世紀美術』、『西洋美術史』（美術出版社）

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
レポート課題等提出 50%、小テスト 30%、授業参加意欲 20%

《授業時間外学習》

美術館やギャラリーで多くの作品を見るようにして下さい。（観賞レポートも提出してもらいます）
不明な点は必ず質問したり調べたりして、わからないままにはくれぐれもしないこと。

《備考》

遅刻や私語は減点。
わからないことはいつでもどんどん質問して下さい。（メールでもどうぞ）

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	モダンアートの始まり（印象派、後期印象派など）
第 2 週	モダンアートの展開①（表現主義、キュビズム、未来派など）
第 3 週	モダンアートの展開②（ダダ、シュルレアリスムなど）
第 4 週	抽象表現主義
第 5 週	ネオ・ダダ、ヌーボー・レアリスム
第 6 週	ポップ・アート
第 7 週	キネティック・アート、オブ・アート
第 8 週	ポストペインタリー・アブストラクション
第 9 週	ミニマル・アート
第10週	コンセプチュアル・アート、パフォーマンス・アート
第11週	スーパー・リアリズム
第12週	ランド・アート
第13週	新表現主義
第14週	シミュレーションニズム
第15週	マルチカルチャリズム

《学科教育科目》

科目名	デジタルデザインⅢ (3D)				
担当者名	谷口 新				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

3Dソフト、Shadeを使い、基本的な3Dの概念を習得し、実際に3D作品を制作します。

《授業の到達目標》

様々な3Dの表現方法を体験し、各自が作ってみたいオブジェクト(3D作品)を完成させるのが目標です。

《テキスト》

そのつど資料を配布する。

《参考文献》

SHADE R10パーフェクトマスター (株秀和システム)

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
評価は作品提出(70%)、出席率(30%)で行います。

《授業時間外学習》

3Dの作品制作にはかなりの時間が必用です。各自が表現したいと考えている3Dオブジェクトに近づくためには、授業時間以外で制作の時間を作るようにする必要があります。また、アニメーションの要素が加わるとより一層時間がかかります。各自、積極的に教室の自由利用時間を活用してください。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス 三次元CGの役割とできること
第 2 週	SHADEの基本操作練習1 モデリング
第 3 週	SHADEの基本操作練習2 テクスチャーマッピングとライティング
第 4 週	基本的な形状を使ったオブジェクトの制作
第 5 週	基本的な形状を使ったオブジェクトの制作
第 6 週	基本的な形状を使ったオブジェクトの制作
第 7 週	有機的なオブジェクトの制作
第 8 週	有機的なオブジェクトの制作
第 9 週	有機的なオブジェクトの制作
第10週	アニメーションの基本
第11週	アニメーションの基本
第12週	自由課題制作
第13週	自由課題制作
第14週	自由課題制作
第15週	自由課題制作、提出

《学科教育科目》

科目名	デジタルデザインⅣ (Web)				
担当者名	谷口 新				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

Web作成ソフトと使い、基本的な概念とWebページデザインを目的にしたクラスです。利用するソフトはDreamweaver及びFlashを使います。

《授業の到達目標》

Webページは日常的に利用する情報源として利用します。自らそのページデザインをデザインし、内容を考え、その基本的な構成方法や表現方法を学び、実際に表現してみるのが目標です。

《テキスト》

プリントアウトを配布します。

《参考文献》

必要な場合はクラスで紹介します。また、各自自習目的でそれぞれの目的にあったものを持つことをお勧めします。

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

出席 (30%) と作品提出(ナビゲート可能なWebページを完成させる) (70%) の比率で評価を行います。

《授業時間外学習》

特に動画の要素を持つFlashは、制作に時間がかかります。また、その構成を考えるには物語性が必要です。公開されているFlashを利用したWebページを見て、どのように物語性が作られているか、また、どのような表現方法が使われているかを確認し、制作の目標を授業前に決めておいて下さい。

《備考》

基本的なソフトウェアの使い方やWebページ構築などクラスでの作業が多いので、ページ作成に使う素材などは指導があれば授業前に必ず準備しておいてください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	コース概要とソフトウェアの紹介。 Flash の説明と作業
第 2 週	Flash を使った作業
第 3 週	Flash を使った作業
第 4 週	Flash を使った作業
第 5 週	Flash を使った作業
第 6 週	Dreamweaver の紹介と作業
第 7 週	Dreamweaver の紹介と作業
第 8 週	Dreamweaver の紹介と作業
第 9 週	Dreamweaver の紹介と作業
第 10 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業
第 11 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業
第 12 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業
第 13 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業
第 14 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業
第 15 週	各自の目的に合わせた Web ページ作成作業

《学科教育科目》

科目名	日本画B				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

日本画の制作

《授業の到達目標》

日本画Aで学んだ基礎をさらに応用させ、より深い内容で制作する。

《テキスト》

なし

《参考文献》

適宜指示する。

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品（70%）と出席状況（30%）の総合評価。

《授業時間外学習》

日本画の授業においては、写生を中心に行う。授業時間外においても常に何でもよいから写生し訓練しなければならない。多くの素描が作品を造っていくことを理解しないとイケない。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	授 業 計 画		
第1週	風景をテーマに	彩色	(前提講義を含む) 実技指導
第2週	風景をテーマに	彩色	中間実技指導
第3週	風景をテーマに	彩色	中間実技指導
第4週	風景をテーマに	彩色	中間実技指導
第5週	風景をテーマに	彩色	仕上げ実技指導
第6週	人物をテーマに	彩色	(前提講義を含む) 実技指導
第7週	人物をテーマに	彩色	中間指導
第8週	人物をテーマに	彩色	中間指導
第9週	人物をテーマに	彩色	中間指導
第10週	人物をテーマに	彩色	仕上げ実技指導
第11週	自由制作	彩色	(前提講義を含む) 自らテーマを設定し、スケッチ等を行う。
第12週	自由制作	彩色	中間実技指導
第13週	自由制作	彩色	中間実技指導
第14週	自由制作	彩色	仕上げ実技指導
第15週	合評会		

《学科教育科目》

科目名	洋画B				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

鑑賞者に伝えるべき自らのテーマ・メッセージを深く掘り下げ、よりの確な表現方法及び材料を探りながら個性豊かに表現する。

《授業の到達目標》

計50号以上の作品を創作することが出来る。

色彩・構成・材料などあらゆる造形要素を吟味・研究しながらテーマ性豊かな作品を創作することが出来る。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

随時、画集を使用

《成績評価の方法》

・授業には、10回以上の出席を持って成績評価の対象とする。

・作品（100%）

《授業時間外学習》

授業時間外でも、随時主体的に創作に打ち込むこと。

《備考》

特にない

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	油彩画制作①
第2週	油彩画制作①
第3週	油彩画制作①
第4週	油彩画制作①
第5週	油彩画制作②
第6週	油彩画制作②
第7週	油彩画制作②
第8週	油彩画制作②
第9週	油彩画制作③
第10週	油彩画制作③
第11週	油彩画制作③
第12週	油彩画制作③
第13週	油彩画制作③
第14週	油彩画制作③
第15週	合評会

《学科教育科目》

科目名	ビジュアルデザインB				
担当者名	谷口 新				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

ビジュアルデザインの表現方法の学習、及びプレゼンテーション能力の育成とポートフォリオの作成

《授業の到達目標》

今まで学んできたビジュアルデザインの基礎をより深く発展させ、受講者が発想し、表現したことがわかり易く伝えられることを中心に、ポートフォリオの作成を行います。

《テキスト》

随時プリント配布します。

《参考文献》

必要な場合はクラスで紹介していきます。

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品（70％）出席（30％）の比率で評価を行います。

《授業時間外学習》

授業内で行う作業だけでは限りがあります。教室の自由利用時間を上手く活用し、濃い内容の作品ができるように努力してください。また、実際に使われている作品例(広告等のデザインなど)の中から、興味を持てるものを見つけ、自ら再現してみるというのも自己表現の幅を広げる役に立ちます。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	内容の説明
第 2 週	レイアウトデザイン 制作
第 3 週	制作
第 4 週	レイアウトデザインの提出と合評
第 5 週	立体的なデザインの発想 制作
第 6 週	制作
第 7 週	制作
第 8 週	立体的なデザインの提出と合評
第 9 週	ポートフォリオ作成の説明
第 10 週	ポートフォリオの制作
第 11 週	ポートフォリオの制作
第 12 週	ポートフォリオの制作
第 13 週	ポートフォリオの制作
第 14 週	ポートフォリオの制作
第 15 週	ポートフォリオの制作と提出及び合評

《学科教育科目》

科目名	建築デザインB				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 建築デザインAに引き続き、建築設計の技術を住宅、小規模公共施設の設計を通じて学ぶ。
- ・ 授業は作品の制作を中心に進め、必要に応じて座学による講義を行う。

《授業の到達目標》

- 住宅、小規模な公共施設の基本設計能力を身につける。
- 模型制作、パース作成等を通じて、プレゼンテーション能力を高める。
- 二級建築士試験、インテリアコーディネーター試験等の製図分野に対応できる能力を身につける。

《テキスト》

- ・ テキストは用いない

《参考文献》

- ・ 『新建築(新建築社)』、『新建築住宅特集(新建築社)』、『Domus』、『Elcroquis』(いずれも図書館で閲覧可能)等の建築雑誌にできるだけ目を通しておくこと。

《成績評価の方法》

- ・ 作品(100%)によって評価する。全課題の提出が必要である。

《授業時間外学習》

- ・ 授業時間外学習全般について
作品の制作には時間を要するため、授業時間外での制作が不可欠である。
授業計画に従い、確実に授業時間外での作業をすすめること。

《備考》

- ・ 建築設計の基礎を学んだ者を対象とする。
- ・ 製図板を用いた手書き製図を行う。受講には、製図用シャープペンシル、三角スケール、三角定規(または勾配定規)、字消し板等の製図道具、及びコンベックスが必要である。またトレーシングペーパー、模型制作に用いるスチレンボード、スチのりが適宜必要である。
- ・ 製図にはJW_CADを利用する場合がある。
- ・ 本授業は建築士受験資格取得のための必修科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス:・授業全体のプログラムと建築設計の現状について
第 2 週	課題 1 「住宅または小規模公共施設」のエスキス
第 3 週	課題 1 「住宅または小規模公共施設」のエスキス
第 4 週	課題 2 「住宅または小規模公共施設」のエスキス模型の製作
第 5 週	課題 3 「住宅または小規模公共施設」の一般図作成
第 6 週	課題 3 「住宅または小規模公共施設」の一般図作成
第 7 週	課題 3 「住宅または小規模公共施設」の一般図作成
第 8 週	課題 3 「住宅または小規模公共施設」の一般図作成
第 9 週	課題 4 「住宅または小規模公共施設」の模型作成
第 10 週	課題 4 「住宅または小規模公共施設」の模型作成
第 11 週	課題 4 「住宅または小規模公共施設」の模型作成
第 12 週	課題 4 「住宅または小規模公共施設」の模型作成
第 13 週	課題 5 「住宅または小規模公共施設」のプレゼンテーション
第 14 週	課題 5 「住宅または小規模公共施設」のプレゼンテーション
第 15 週	講評会と授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	版画B				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

作品制作を段階的に行うことによって、シルクスクリーンの基礎となる技術を確実に習得する。前年度に「版画A」を履修した受講学生は、作品内容及び技術をともに一步進めた作品制作を試みる。

《授業の到達目標》

- * シルクスクリーンのプロセスである、作画、ポジフィルムの作成、製版、刷りの技術を体得し、作品制作を自身で行うことができる。
- * シルクスクリーンの技法と効果の特長を知り、独自に工夫ができる。
- * 自身の作品のテーマを常に探り、作品制作を試みるができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・授業内での作品制作状況とその成果 10%
- ・提出作品による評価 90%
- ・授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・授業終了時に各学生に対し、次週までに行う準備を指示する。(例 材料調達、資料収集、モチーフの準備等)
- ・授業の後片付けと共に、当日の作品制作に不備な点があれば時間外に補うよう指示する。

《備考》

- ・時間のかかる準備や後片付けは時間外に行い、授業時間は有効に使って下さい。
- ・広い視野を持って、常に興味のあることを探り続けて下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	版表現とシルクスクリーンについての全般的な説明 作品制作スケジュールの提示 2版で作る作品の説明 「版画 A」受講者大型多色刷り作品制作説明
第 2 週	2版で作る作品プランニング 「版画 A」受講者大型多色刷り作品原画プランニング
第 3 週	2版で作る作品のプランニング、ポジフィルム作成 「版画 A」受講者大型多色刷り作品原画プランニング
第 4 週	ポジフィルム作成、製版 「版画 A」受講者大型多色刷り作品原画プランニング
第 5 週	製版と刷り 「版画 A」受講者大型多色刷り作品原画プランニング ポジフィルム作成
第 6 週	製版と刷り 1作目完成 「版画 A」受講者大型多色刷り作品 製版 ポジフィルム作成
第 7 週	2作目プランニング 「版画 A」受講者大型多色刷り作品 刷り 製版 ポジフィルム作成
第 8 週	2作目プランニング 「版画 A」受講者大型多色刷り作品ポジフィルム作成 製版 刷り
第 9 週	2作目プランニング ポジフィルム作成 「版画 A」受講者大型多色刷り作品ポジフィルム作成 製版 刷り
第 10 週	製版 刷り ポジフィルム作成 「版画 A」受講者大型多色刷り作品ポジフィルム作成 製版と刷り 1作目完成
第 11 週	製版 刷り ポジフィルム作成 「版画 A」受講者大型多色刷り作品 2作目原画プランニング
第 12 週	製版 刷り 「版画 A」受講者大型多色刷り作品 2作目原画プランニング
第 13 週	製版 刷り 「版画 A」受講者大型多色刷り作品 2作目原画プランニング
第 14 週	2作目完成 サインの記入と額装の説明 大型多色刷り作品 2作目原画プランニング完成 額装の説明
第 15 週	作品提出 2点 大型多色刷り作品 1点 原画 1点

《学科教育科目》

科目名	インテリアデザインB				
担当者名	井樋 満治				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

インテリアのデザインには、大別して住宅系のデザインと店舗系のデザインに分かれます。店舗系のデザインでは、そのデザイン性もさることながら、経済的な要素が加わります。店舗における商品の扱い方や販売方法に準じた空間デザインを行い、内容の理解を深める必要があります。

《授業の到達目標》

店舗デザインの課題を通じて、インテリアに関わる基本的な内容を理解すること。
 市場経済における店舗の役割と機能を理解すること。
 マーケティングと店舗の関係を理解し、適切なデザインを行えること。
 店舗に必要な要件を満たしたデザインを行え、その空間形状を想定出来、第三者に伝えるべき方法を理解し表現すること。
 内装施工の方法を理解すること。

《テキスト》

その都度必要なプリントを配布。

《参考文献》

インテリアコーディネーターハンドブック 技術編・販売編。
 その他、インテリアに関する書籍全般。

《成績評価の方法》

作品の提出により採点します。(100%)
 出席10回以上が単位認定の基準とする。

《授業時間外学習》

日常生活の中で目にする店舗や、その空間デザインを意識して見ることや、スケッチや写真撮影によりデータとして残すように心がけてください。
 販売されている商品の特性と展示方法に気をつけて見てください。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション
第2週	課題1「一坪店舗の計画」課題説明。コンセプト構築。
第3週	エスキース作成。
第4週	平面図の作成。商品の展示、販売方法の決定。
第5週	展開図の作成。設備・什器の選定。高さ計画。
第6週	天井伏図の作成。照明計画。
第7週	立体的表現の解説および演習。企画書の作成。
第8週	課題2「鉄筋コンクリート造建築物内部の店舗の企画・設計」課題説明。コンセプト構築。
第9週	エスキース作成。
第10週	平面図の作成。商品の展示、販売方法の決定。
第11週	展開図の作成。設備・什器の選定。高さ計画。
第12週	天井伏図の作成。照明計画。
第13週	立体表現。
第14週	企画書の作成。
第15週	プレゼンテーション。

《学科教育科目》

科目名	イラストレーションB				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	3・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

イラストレーションにとって大切なことは、何でしょう。絵を描く技術はもちろんですが、それだけではなく依頼されたテーマを解釈し、絵でその答えを出す『発想』『考え方』が大切です。この演習では、イラストレーションの仕事とは？を原点に実際の仕事を意識した課題を設定します。身近な所に視点を置き『屋内編』『屋外編』に分けて商品制作を制作します。

《授業の到達目標》

- 自分のオリジナルキャラクターを生み出す。(絵本作家、イラストレーターを紹介)
- 自分の好きな色材や材料、道具にこだわる。
- スクラップ帖を制作(毎週チェック)
- 資料をファイルする。(学期末チェック)

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

イラストレーションの教科書 著：ローレンス・ツイゲンクラッシュ 玄光社 MOOK

《成績評価の方法》

・授業出席(10回以上の出席をもって成績評価の対象とする)20%・全課題作品の提出80%

《授業時間外学習》

- ・予習の方法/毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法/授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について/はさみ、カッター、定規、のり、アクリル絵具、色鉛筆、油性ペン、水性ペン
※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料、道具の説明。
第 2 週	屋内編① チラシ、パンフレット しもんスタンプでオリジナルキャラクターを生み出す
第 3 週	屋内編② チラシ、パンフレット イラストレーターの表紙制作
第 4 週	屋内編③ グッズ1 こけしマッチ制作
第 5 週	屋内編④ グッズ2 手作りキャンドル、デコパージュ技法を学ぶ。
第 6 週	屋内編⑤ ステーションナリー paper card制作
第 7 週	屋内編⑥ 絵本、雑誌 絵本のストーリー探し&ピクニック
第 8 週	屋内編⑦ 絵本、雑誌 さわれる絵本、手ざわり絵本制作
第 9 週	屋外編① 案内板 チョークアートレッスン
第 10 週	屋外編② 店の看板1 POP文字の練習
第 11 週	屋外編③ 店の看板2 看板制作
第 12 週	屋外編④ 壁画1 大学祭のステージ装飾制作
第 13 週	屋外編⑤ 壁画2 自由制作
第 14 週	屋外編⑥ ギャラリー展示
第 15 週	チャレンジショップ企画

《学科教育科目》

科目名	自由制作Ⅲ				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

この演習授業では、美術を広い視野で捉え、領域にとらわれることなく、より自由な表現活動を行うことをめざしている。学生が各々テーマを設定し、計画表の作成、材料の調査と購入、制作を行う。担当教員は必要に応じて助言を行うが、場合によっては教員と学生が共に新たな技法や素材の研究を行うこともある。

《授業の到達目標》

- * 自主的に制作したい作品のプランが提示できる。
- * 作品制作の計画を効率よく立てることができる。
- * 材料調査、購入及び制作を意欲的に行うことができる。
- * 作品の制作意図と表現方法について説明することができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・ 作品提出100%で成績評価を行う。
- ・ 授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・ それぞれの作品制作の進行状況に応じて、授業の事前準備及び授業後の補足事項を各学生に指示する。

《備考》

- ・ 資料収集、材料調査、購入は授業時間外に行い、授業時間を有効に使ってください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 作品プランニング 作品資料提示
第 2 週	作品制作計画表の作成
第 3 週	作品制作計画表の完成 計画内容へのアドバイス
第 4 週	作品制作へのアドバイス
第 5 週	作品制作へのアドバイス
第 6 週	作品制作へのアドバイス
第 7 週	中間報告 計画変更最終受付
第 8 週	作品制作へのアドバイス
第 9 週	作品制作へのアドバイス
第 10 週	作品制作へのアドバイス
第 11 週	作品制作へのアドバイス
第 12 週	作品制作へのアドバイス
第 13 週	作品制作へのアドバイス
第 14 週	作品提出
第 15 週	合評会

《学科教育科目》

科目名	自由制作Ⅲ				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ・自由制作Ⅱの延長として、既成の枠にとらわれない斬新で独創的な表現が実現できるように、助言する。
- ・作品発表の方法や考え方を実践的に指導する。

《授業の到達目標》

既成の芸術的範疇にとらわれない、独創的な作品を創作出来るようにする。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

使用しない

《成績評価の方法》

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・作品（100%）

《授業時間外学習》

週1回1コマの授業時間は、教員から制作指導やアドバイスを受ける時間である。作品制作そのものは自主的に課外の時間などを利用して行わなければならない。

《備考》

作品は、学外または学内で発表することとする。（個展形式など）

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	オリエンテーション
第2週	制作・助言
第3週	制作・助言
第4週	制作・助言
第5週	制作・助言
第6週	制作・助言
第7週	制作・助言
第8週	(中間発表)
第9週	制作・助言
第10週	制作・助言
第11週	制作・助言
第12週	随時 作品発表
第13週	随時 作品発表
第14週	随時 作品発表
第15週	合評会

《学科教育科目》

科目名	自由制作Ⅲ				
担当者名	浜島 成嘉				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

・課題にもとずいて、作品を制作するのではなく、日頃自分自身でイメージして、表現してみたいものを実験的に自由に表現する。ルールに束縛されないで作品を制作することにより、自分の新しい表現の世界を発見するかもしれない。

《授業の到達目標》

・通常の課題はある条件のもとに表現します。課題から全く開放されると、自分でテーマから表現技法まで、計画しなければならぬため途惑ってしまい意外と難しい。

しかしこの自由制作・Ⅲは条件が全くない制作であることから、自分自身も気が付かなかった個性の発見することに繋がります。

《テキスト》

・使用しない。適宜紹介する。

《参考文献》

・既存の作品に囚われないで制作すべきであり参考文献はなし。

《成績評価の方法》

- ・制作した作品・・・100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

・山や森や空、川など自然の世界や、街、人、動物等を良く観察し、自分自身の環境をしっかりと観察し造形美を発見する。

《備考》

・各自の環境における、造形の美、色彩の美しさ発見する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・「自由制作Ⅲ」について説明
第 2 週	・表現しようとするテーマを検討する (皆で自分自身の表現したいイメージを説明する)
第 3 週	・テーマの検討と絞込み
第 4 週	・テーマに従いイメージスケッチの作成・展開
第 5 週	・イメージスケッチの作成(継続)
第 6 週	・イメージスケッチのプレゼンテーション
第 7 週	・作品制作のための絞込み検討
第 8 週	・原案の作成スタート
第 9 週	・原案の作成(試作)
第 10 週	・作品制作スタート
第 11 週	・作品制作(継続)
第 12 週	・作品制作(継続)
第 13 週	・作品制作(作品の制作指導)
第 14 週	・作品制作(作品の制作指導)
第 15 週	・作品完成(合評会)

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

シルクスクリーンによる作品制作を通じて、作品のテーマの設定から完成までの過程を経験し、自身の作品と版表現の効果の結果を確認する。版の支持体は紙に限定せず、布、木、石等、作品によっては多様な素材による制作を試みることも可能である。意欲的な作品制作をめざす。

《授業の到達目標》

- * 作品制作のテーマの設定とそれに対する説明ができる。
- * 制作の手順をおおまかにイメージすることができる。
- * 効率良く作業を進めることができる。
- * 作品制作の結果に対し、客観的な判断ができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・ 作品提出100%で成績評価を行う。
- ・ 授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・ それぞれの作品制作の進行状況に応じて、授業の事前準備及び授業後の補足作業を、各学生に指示する。

《備考》

- ・ 授業時間外にできる事柄は自主的に行い、授業時間を有効に使って下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	テーマの設定、技法、材料等の説明。
第 2 週	資料収集 (学外も可)
第 3 週	資料の整理及びプランニング
第 4 週	原画のプランニング
第 5 週	配色のプランニング
第 6 週	配色のプランニング プラン完成
第 7 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 8 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 9 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 10 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 11 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 12 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 13 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り
第 14 週	ポジフィルムの作成及び製版、刷り 作品完成
第 15 週	展示準備

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

日本画の卒業制作

《授業の到達目標》

日本画A・Bで学んだことの集大成として大作の制作を行なう。100号～120号大の大きさで、各自、自分のテーマで制作を行なう。

《テキスト》

なし

《参考文献》

適宜指示する。

《成績評価の方法》

授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品（100%）の評価。

《授業時間外学習》

授業時間外でも常に作品と対面し、空いている時間を卒業制作を行なうようにして欲しい。

《備考》

自ら考えたテーマ・スケジュールに従って制作すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	各自自分のテーマを基にして、写生等を行い、エスキース・下絵作りを行う。
第 2 週	各自自分のテーマを基にして、写生等を行い、エスキース・下絵作りを行う。
第 3 週	各自自分のテーマを基にして、写生等を行い、エスキース・下絵作りを行う。
第 4 週	中間の個別指導を行ない。テーマを決定する。
第 5 週	十分な取材・写生を続行し、プランを練る。
第 6 週	十分な取材・写生を続行し、プランを練る。
第 7 週	下絵を完成。本紙制作
第 8 週	本紙制作（中間実技指導）
第 9 週	本紙制作（中間実技指導）
第 10 週	本紙制作（中間実技指導）
第 11 週	本紙制作（中間実技指導）
第 12 週	本紙制作（中間実技指導）
第 13 週	本紙制作（中間実技指導）
第 14 週	本紙制作（中間実技指導）
第 15 週	合評会

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

絵画実習（油彩）の集大成として自由課題で大作を制作する。

《授業の到達目標》

色彩・構成・材料などあらゆる造形要素を吟味・研究しながらテーマ性豊かな作品を100号以上の大作に表現することが出来る。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

随時、画集を使用

《成績評価の方法》

- ・授業には、10回以上の出席を持って成績評価の対象とする。
- ・作品（100%）

《授業時間外学習》

授業以外の時間も使い、自主的に制作していく姿勢が必要。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（卒業制作について、作品の実際例）
第 2 週	作品下絵作り、取材
第 3 週	作品下絵作り、取材
第 4 週	作品下絵作り、取材
第 5 週	下絵仕上げ
第 6 週	油彩画作成（100号程度）
第 7 週	油彩画作成
第 8 週	油彩画作成
第 9 週	油彩画作成
第 10 週	油彩画作成
第 11 週	油彩画作成
第 12 週	油彩画作成
第 13 週	油彩画作成
第 14 週	油彩画作成
第 15 週	採点、合評会（卒業制作展で発表）

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	稲富 恭				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・二年間の総括として作品制作、または研究論文の執筆を行う。
- ・作品、研究のテーマは原則として各自が決定する。ただし、必要に応じて教員がアドバイスを行う場合がある。

《授業の到達目標》

- 作品展示、研究発表会等、公に対する発表を前提とした作品の制作または研究論文の執筆を行う能力を身につける。
- 2年間の集大成として高い完成度を持った成果品を完成させる。

《テキスト》

- ・テキストは用いない。

《参考文献》

- ・各自のテーマに応じて授業中に提示する。

《成績評価の方法》

- ・作品(100%)、または研究論文(100%)により評価する。

《授業時間外学習》

- ・授業時間外学習全般について
原則として授業時間外での成果を前提に授業時間の指導は行われる。
授業計画を十分に理解し、確実に授業時間外での制作、研究を進める事。

《備考》

- ・本授業は建築士受験資格取得のための必修科目である。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	ガイダンス 作品制作・研究論文執筆のスケジュール管理について
第 2 週	テーマに対する指導とディスカッション(1)
第 3 週	テーマに対する指導とディスカッション(2) 制作、調査のすすめかたについて
第 4 週	(作品)エスキスに対する指導、(論文)調査に対する指導(1)
第 5 週	(作品)エスキスに対する指導、(論文)調査に対する指導(2)
第 6 週	(作品)エスキスに対する指導、(論文)調査に対する指導(3)
第 7 週	(作品)エスキスに対する指導、(論文)調査に対する指導(4)
第 8 週	中間講評会
第 9 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(1)
第 10 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(2)
第 11 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(3)
第 12 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(4)
第 13 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(5)
第 14 週	(作品)プレゼンテーションに対する指導、(論文)論文内容に対する指導(6)
第 15 週	授業のまとめ 卒業制作展におけるプレゼンテーション

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	浜島 成嘉、谷口 新				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ビジュアルデザインの分野に関する制作、及び研究

《授業の到達目標》

- ・ビジュアルデザイン、自由制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで創作した事を踏まえて、各自がそれぞれイメージする個性豊かな 作品を、集大成として卒業制作・研究に挑戦する。

《テキスト》

- ・使用しない

《参考文献》

- ・適宜紹介する。

《成績評価の方法》

- ・制作した作品・・・100%
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》

- ・美術館、画廊等々で開催されている展覧会。画集・デザイン集などを見て自身の感性を磨く。

《備考》

- ・自分自身が最も表現したいイメージを定め、そのイメージを展開し制作する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	・卒業制作・研究についての解説。
第 2 週	・制作・研究テーマの検討。
第 3 週	・制作・研究テーマの検討をしテーマの決定をする。 (プレゼンテーション：各自が表現しようとする作品のイメージと制作意図を説明する)
第 4 週	・テーマを基にイメージスケッチを描く。
第 5 週	・イメージスケッチを描き、プランをさらに検討する。
第 6 週	・イメージスケッチから、卒展に出品するイメージの作品を検討し絞り込みを行なう。
第 7 週	・出品する作品の決定。(原図の下描きの作成スタート)
第 8 週	・原図の下描き(継続)
第 9 週	・原図の下描き(継続)
第 10 週	・出品する作品の制作(着色等々スタート)
第 11 週	・作品の制作(継続)
第 12 週	・作品の制作(作品完成の為の指導)
第 13 週	・作品の制作(作品完成の為の指導)
第 14 週	・作品の制作(作品完成の為の指導)
第 15 週	・作品の完成

《学科教育科目》

科目名	卒業制作・卒業研究				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

『ひらく・あきなう・ひらめく』をテーマに自作のグッズを制作します。同時に作品を売るための方法も学びます。雑貨屋さんは、ポップ、カジュアル、モダン、アンティーク、ハンドメイド等お店ごとにスタイルが決まっています。モノが魅力的に見えるように並べ方を工夫したり、使い方を提案したり、季節毎に並べかえたりすることが大切です。作った人の手の温もりや、こめた思いをどれだけ感じとれるかも体験します。卒業制作展では、ディスプレイも含め自分らしい商いのスタイルで『SHOP,CAFÉ,お店屋さん』を開いて頂きます。

《授業の到達目標》

- 『自分の好きなもの』にとことんこだわったお店を作る。
- 『自分にぴったりと合う材料や道具』にこだわり極める。
- 『具体的な企画やイベント、コンペ等の応募』積極的に参加する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

イラストレーションの教科書 著：ローレンス・ツイーゲンクラッシュ 玄光社 MOOK

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出80％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／はさみ、カッター、定規、のり、アクリル絵具、色鉛筆、油性ペン、水性ペン
※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料、道具の説明。
第 2 週	雑貨制作① 開業ストーリー1、2、3 お店づくりステップ1、2、3
第 3 週	雑貨制作② 開業ストーリー4、5、6、お店づくりステップ4、5、6
第 4 週	雑貨制作③ 開業ストーリー7、8、9 お店づくりステップ7、8、9
第 5 週	雑貨制作④ 開業ストーリー10、11、12 お店づくりステップ10、11、12
第 6 週	雑貨制作⑤ 開業ストーリー13、14、15 お店づくりステップ13、14、15
第 7 週	雑貨制作⑥ 開業ストーリー16、17、18 お店づくりステップ16、17、18
第 8 週	個人制作① レンタルボックス 小さな箱を借りて、その中で自分のお店をする。
第 9 週	個人制作② ショップ委託販売 お店に作品をおいてもらう。自分の作品に合ったお気に入りのお店をみつける。
第 10 週	個人制作③ オンラインショップ ユーザーがふえているショップを立ち上げる。
第 11 週	個人制作④ イベント、フリーマーケット 気軽に出店できお客さんの反応もすぐに分る。ギャラリー展示会も含む。
第 12 週	個人制作⑤ 移動店舗 おしゃれな車型やカスタマイズで自分らしさを出した車をお店にしてみる。
第 13 週	個人制作⑥ ちいさなお店 チャレンジショップ企画
第 14 週	個人制作⑦ 作品確認、梱包
第 15 週	個人制作⑧ 作品確認、梱包